

ぼくが家族のためにできること

新見市立野馳小学校

五年 藤村海史

ぼくのお父さんは車屋さんで働いている。暑い日も寒い日も外で一生けん命仕事をしている。お父さんはお客さんが安全に車に乗れるように点検をしたり、修理をしたりしている。お父さんはとても車が好きで、いろいろな車のことを知っていて、ぼくに教えてくれる。好きなことを仕事にしているお父さんは大変そうだけど楽しそうだ。

お母さんは病院で看護師をしている。お母さんは仕事の話あまりしないから、どんな仕事をしているか知らない。ぼくが二年前に入院した時に、看護師さんに点滴してもらったり、熱や血圧を測ってもらったりしたことがあった。入院するのは嫌だったけど、優しく話をしてくれたり、採血の後はほめてくれたりしてうれしかった。お母さんは人の役に立つ仕事をしているんだなと思った。ぼくたちがけがをした時には、すぐ手当てをしてくれてとても心強い。

お父さんもお母さんも仕事がいそがしそうだけど、家に帰ってから家事をしたり、ぼくたちの宿題や提出物を見たりして、寝る前までたくさんのことをしていて大変そうだな。お母さんがご飯を作っている時に、お父さんは洗たく物を取りこんでいる。お母さんが洗い物をしている時に、

お父さんはそうじをしたり、ぼくたちと遊んでくれたりしている。お父さんとお母さんはおたがいに何も言わないけど、できることを当たり前のように協力してやっている。

お父さんが仕事でおそくなる時やお母さんが夜勤でない時は、一人でしないといけないので、いつもより寝るのがおそくなる。そんなお父さんとお母さんを見て、ぼくが手伝いしたら、お父さんとお母さんは早く寝れるかもしれないと思った。

ぼくはまず洗たく物をたたんでみた。意外ときれいにたたむのが難しくて時間がかかった。次にお風呂にお湯を入れてみた。浴そうの栓がしまっていないくて、お湯がたまっていなかった。時間がかかったし、失敗したけど、お母さんは、

「手伝ってくれてありがとう。」
と言ってくれた。

お母さんが、仕事から帰ってきたお父さんに、ぼくが手伝ったことを話すと、お父さんもぼくをほめてくれた。ぼくはちよつと照れくさかったけど、お父さんとお母さんの役に立ててうれしかった。

お父さんとお母さんは仕事をがんばっているから、家では少しでも長い時間休んでほしい。ぼくが手伝ったら、まだまだ時間がかかるけど、二人より三人でした方が早く家事が終わるし、弟たちも手伝えるようになったらもっと早く終わるかもしれない。ぼくが弟たちのお手本になって、家族が協力して助け合える明るい家庭にしていきたい。